

調査報告

チバクロバネキノコバエによる作物被害の詳細

一般社団法人 日本植物防疫協会 茨城研究所 小 林 政 文

はじめに

クロバネキノコバエ類は、ハエ目クロバネキノコバエ科 (Sciaridae) の昆虫であり、園芸作物では主にチバクロバネキノコバエ *Bradysia impatiens* (Johannsen) による被害が問題となっている (図-1)。本種による被害は施設園芸作物や露地野菜で報告され、特に促成栽培のキュウリにおいて被害が大きい (笹川・赤松, 1978; 中込, 1980; 笹川, 1985)。近年ではイチゴの被害が多く報告され、各県から特殊報が出されるなど、全国的な問題になっている (三重県病害虫防除所, 1998; 長野県病害虫防除所, 2004; 長崎県病害虫防除所, 2008; 佐賀県農業技術防除センター病害虫防除部, 2010; 茨城県病害虫防除所, 2014)。

本種によるイチゴへの被害の詳細は上記の特殊報の中で報告されている。これまでに行われてきた本種を対象とした薬剤効果試験では、生息する成虫および幼虫を計数することで薬剤の効果を評価していたが、被害程度に基づく薬効評価は行われていなかった。そこで本研究では、報告のあった被害を念頭に置き、本種の薬剤効果試験における生息場所や被害を基にした効率的な調査部位の検討に寄与するため、室内でイチゴ株に放飼して、被害の詳細を調査したので紹介する。

また、カブ、キャベツ、ナス、キュウリ、ネギ、ニラ、ニンジンへの被害調査も行ったので、併せて紹介する。

I イチゴにおける被害

本研究では、2017年3月よりナタネ油粕を混和した土壌を用いて累代飼育した個体群を供試虫とし、2018年10月に購入したイチゴ (とちおとめ) 苗を供試作物とした。供試作物は15 cm プラスチックポットに鉢上げしたものと、5 cm 幅の金属枠をガラス板 (15 cm × 15 cm) で挟み込んだもの (以降、ガラスポット) に鉢上げしたものを用いた (図-2)。ガラスポットは地際部



図-1 チバクロバネキノコバエ幼虫



図-2 被害調査試験に用いたイチゴ株 (上: プラスチックポット, 下: ガラスポット)

Details of Damage by Dark-winged Fungus Gnats *Bradysia impatiens* (Johannsen). By Masafumi KOBAYASHI
(キーワード: クロバネキノコバエ, 加害部位, 被害調査)